

日清紡績株式會社名古屋工場争議の件(第二報)

大 島 風 光 浪 颯

謝賜會常務理事

名古屋出張所 大 島 風 光 浪 颯

昭和十年一月二十五日

第 一 四 號

80.1.25
1402

謝賜會名古屋出張所

財團協調會名古屋出張所

日清紡績株式會社名古屋工場争議の件(第二報)

名古屋市南區豊田町日清紡績株式會社名古屋工場に關する労働争議は昭和九年末に勞資會見の筈なりしも労働組合側強硬にして勞資の會見をも見ずして越年、争議團に於いてはピラ戰術に出で毎日三、四回發行する有様であつたが工場側は依然強硬にして解決の曙光さへ無き有様である。

かくて兩者持久戦に入つたのであるが應援組合である日本労働組合全國評議會中央委員山崎常吉は徒らに持久戦を繼續することは組合側に於いても不利となし昭和十年一月十二日「山崎をオプザイバーとして勞資の會見を斡旋されたい」と財團法人協調會大澤名古屋出張所長に申出たので大澤所長はこの條件は前回犬飼縣調停官補等の會見斡旋條件と同様なるを以て先づ犬飼縣調停官補、平野熱田署(所轄)特高主任等と打合せを了して日清紡績前名古屋工場長尾崎憲三、同新工場長西本直民等にも山崎よりの申出でを通告して其の承諾を得るに至つたので翌十三日は日曜日であるに拘らず午后四時